

令和4年2月18日

「民学産公」協働研究事業成果報告書

「みたか100年の森」の基盤・プラットフォームの形成

目次

1. 概要・目的.....	3
2. 申請団体のプロフィール	4
3. 参加団体プロフィール	4
4. 実施期間.....	4
5. 社会的な背景.....	5
6. 事業の詳細と結果	9
7. 考察と今後の計画	17

1. 概要・目的

いま地球では、異常なスピードで種の絶滅が進み、生物多様性と生態系サービスが消失し、多くの人は自らが自然の一部であることを忘れてしまっています。「IPBES 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価」では、この衰退の動きは食い止めることができるものの、人類の自然の関わり方が全面的かつ「抜本的に変化 (Transformative Change)」する必要があると結論します。私たちはこの現代社会のありようを危惧し、食と農、生態系に配慮した持続可能な社会をテーマに、自然・生態系・都市農業・地産地消・健康などに関わりを持つ個や団体がゆるやかにつながりながら、三鷹市という地域で地球規模の課題を共有しながら、何が出来るかを考え取り組んでいます。

2020年度、「三鷹まちづくり総合研究所」の「まちづくり研究員」の制度を活用して三鷹市に提案した論文では、自然と調和する社会にシフトしていく原動力を後押しするものとして、学校給食の有機化を述べました。その調査・執筆を進める過程で、三鷹市には既に様々な活動をされている個や団体がいることが分かりました。出会った個や団体の素晴らしい取り組みを、多くの人に伝えることが出来て、またそれぞれの活動が結びつくことで相乗効果を生むことが出来れば、より大きな変化を生むことが出来るのではないのでしょうか。その環境を整えることが、私たちの役割だと考えました。

そこで、出会った活動されている個や団体が、それぞれ活動されている事を可視化しながら、多くの人に伝えていく環境として、WEBプラットフォームを形成します。私たちはこの基盤を活かして、それぞれの物語が発展し、社会を

変える大きな流れを生むことを期待します。

2. 申請団体のプロフィール

みたか100年の森 準備事務局

食と農、生態系に配慮した持続可能な社会をテーマに、自然・生態系・都市農業・地産地消・健康などに関わりを持つ個や団体のゆるやかなつながりです。

自然と調和した、豊かさを分かち合うまち。そんなみたかの未来像を描きながら、つながりの「和」をつむいでいきます。

3. 参加団体プロフィール

1. 参加団体

名称：ルモアン直美

所在地：〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3丁目

2012年三鷹市で「enchanté～つながりのはじめまして」を立ち上げ、地域での活動を開始。2020年まちづくり研究員となり、グループで提案論文を市に提出。研究員を続ける傍ら、「みたか100年の森」のもりの人として活動中。

IT企業勤務（障害者雇用部門）、三鷹市市民協働センター理事、女子栄養大学特別講師・生涯学習講師、(株)ルモアン東京代表取締役

4. 実施期間

2021年4月～2022年2月

5. 社会的な背景

私たちの活動背景となる生物多様性の問題が、国際的にどのように位置づけられ、取り組まれているかについて概観します。「生物多様性（Biodiversity）」は、本稿の土台となる世界観です。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。その中には、ヒトやトラやパンダ、イネやコムギ、大腸菌、さまざまなバクテリアまで、多様な姿の生物が含まれます。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。自分一人、ただ一種だけで生きていくことはできません。多くの生命は他のたくさんの生物と直接かかわり、初めて生きていくことができます。この生きものたちの、命のつながりが、生物多様性と呼ばれます。生物多様性とは、この地球という一つの環境そのものであり、そこに息づく生命の全てを意味します。

その上で「IPBES 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価」(以下、IPBES地球規模評価報告書)は、科学的な根拠を示す重要なナレッジです。IPBESは2012年に複数政府の決議により設立され、130を超える加盟国を持つ独立した政府間組織として、地球上の生物多様性、生態系およびその寄与、ならびにこうした貴重な自然の財産を守り持続的に利用するための「選択肢」と「行動」に関する知識の現状を客観的、科学的に評価し、政策決定者に提供しています。

2019年に承認されたこの報告書は、2005年のミレニアム生態系評価(Millennium Ecosystem Assessment)の公表以来約15年ぶり、政府間組織に

よるものとしては史上初めて、自然界の現状と傾向、この動向が社会にとって意味すること、その直接的および間接的な要因、さらには万人のよりよい将来を約束するために今からでも取りうる行動について評価します。

様々な現象を総合して、約100万種の動植物が数十年のうちに絶滅すると警告し、この絶滅のペースは過去1000万年の平均より10倍から100倍速いと述べ、過去50年の人間活動によって地球環境が負った傷は極めて深刻だと指摘します。地球では過去5億年の間に、恐竜など生物種の大量絶滅期が5度到来しましたが、私たち人間の活動が第6の大量絶滅に追い込むといえます。

これほど多くの生物を絶滅の危機にさらしている要因は複数ありますが、土地利用の変化が主要因とされます。これらの直接的要因の背景には、生産・消費パターン、人口の動態と推移、貿易、技術革新およびガバナンスなどといった社会の価値観や行動が存在します。自然資源の利用者・受益者（先進国・都市生活者等）の多くが土地劣化）の影響を直接受けないため、全世界の行動につながっていないことは重要な課題であり、直接要因のみならず、間接的要因を同時に克服していく必要があります。例えば、消費者が自らの消費が遠く離れた自然や環境にどのような影響を与えるかを考える事が出来ないくらい、遠い場所からの資源の搾取を促すマーケットや仕組みもこれにあたります。

報告書はこの衰退の動きは食い止めることができるものの、人類の自然の関わり方が全面的かつ「抜本的に変化（Transformative Change）」する必要があると結論します。

世界が破滅に向かって突き進みながらも、なぜ人は変わる事が出来ないのでしょうか。「未来を創造する物語: 現代のレジスタンス実践ガイド」では、人間が持つ特異な能力と、物語の力を活かした社会変革について言及します。現生人類が属し、現存するヒト属の唯一の種であるサピエンスは、15万年ほど前に東アフリカで細々と暮らし、大きな脳、道具、学習能力、群れでの生活などの恩恵を持ち得ながらも弱く、食物連鎖の中程に位置する生き物でした。しかし、7万年ほど前に認知能力に劇的な変化が起きたことで、地球上のあらゆる場所に侵入し、他の人類種は絶滅する中でサピエンスだけが生き残ります。「サピエンス全史ー文明の構造と人類の幸福」のユヴァル・ノア・ハラリ教授はこの出来事を、虚構（フィクション）を作り、語り、共有し、信じる力を獲得した「認知革命」と呼び、人が他の生物よりも長けているのは道具を作る能力でもなければ特異な知能でもなく、生物界では類を見ない虚構を通して協力する能力だと述べます。人はこの認知能力を使って集団として活動し、地球上の多くの生物を根絶やししながら繁栄してきました。現代社会で身近なものだと、法人、貨幣、法律、宗教、国家、結婚など、全て私たちがそのように定義し信じ合うことで成り立っている虚構と言えますが、この連綿と続く虚構や信仰が個人と社会を形成し、時代とともに移り変わりながら私たちの世界の見え方を変え、文明を発展させてきました。ところが同時に、想像上のヒエラルキーと差別を生み出し、様々な虚構の牢獄も生み出しました。いま世界が破滅に向かって突き進みながらも、変わる事が出来ないのは、私たち自身で創り上げた虚構の世界と秩序が、生命の摂理から逸脱しているためではないか。生命の摂理から逸脱

した、今の世界の見え方を変える物語が必要です。社会秩序は「共同主観」により支えられるため、一度に多数の人間の意識を変えなければ変化は起こりませんが、様々な個や団体と繋がり、活かし合える大きな物語があれば、変化は起こせるはずです。



図1：みたか100年の森の未来像

この「みたか100年の森」の未来像の原型(プロトタイプ)は2019年の12月に、自然と調和する社会を志す有志との意見交換で作られました。意見交換で交わされたアイデアを未来像として描き、このテーマに共感する仲間とつながりながら輪をひろげてきました。本事業では、引き続きこの輪を広げていく

ことと、WEBプラットフォームを通してそれらの活動を可視化し、その流れを大きくしていくことを目指します。

6. 事業の詳細と結果

(1) 講師を招いての学習会イベントを開催、三鷹の地域の人に「みたか100年の森」の活動と、そのテーマに関心を持ってもらう事を目的に、3回を実施しました。

第1回学習会

日時：2021年7月11日（日）10：00～12：00

場所：三鷹ネットワーク大学又はZoom

参加：現地30名／Zoom 48名 合計78名

「みたか100年の森」の未来像って？ ～縄文の生活から学ぶ 持続可能な暮らしの発見～



みたか100年の森 第1回学習会

持続可能な社会を目指して、縄文の知恵に学びながら、熊本の阿蘇外輪山などの江戸時代の事前、また明治神宮の森についてのケーススタディ、そして三鷹の縄文の存在を紹介しつつ、これからの100年を考えてみましょう。また、世界的に環境が滅びつつある中で、三鷹の森と共に、絶滅の危機にある日本電線が住むことが出来る様な環境を一緒に作っていきましょう。

キーワード 縄文、水、森、持続可能、農業、地産地消、耕作放棄地、日本ミツツバ
コース 熊本、明治神宮

概要

日時 7月11日(日) 10:00～12:00
会場 三鷹ネットワーク大学
東京都三鷹市下連木4-3-3 三鷹駅前協同ビル3階
または オンライン (Zoom)
定員 40名 ※三鷹ネットワーク大学での参加に限る。
定員になり次第、締切です。
主催 みたか100年の森
令和3年「民学座」協働研究事業
協力 三鷹ネットワーク大学推進機構

参加費 無料

講師

上村 敬文
ルーテル学院大学 総合人間学部准教授
筑波大学社会工学部、同大学地域研究科修了、米国ルーテル神学校大学院修了、元国際日本文化研究センター研究員(京都) 著書『食の文化と環境』『比較文化論』『日本の宗教』などを担当している。著書に『多様性との対話』『日本の近代化とプロテスタンティズム』などがある。現在は、地産地消を軸に、熊本の近くで、実験的に縄文の生活を試みている。

ルモアン 直美
都内IT企業の会社員、みもアソシエーツ代表。
enchante 一つながりのほしめとして代表
企業で働きながら、フランス人の夫と語るフランス産ナチュラルワインを輸入販売している。三鷹駅前でラジオ体操やごみ拾いの活動を行い、昨年、まちづくり研究員として市への提言論文を提出。『みたか100年の森』の未来像を掲げ、ゆるやかなネットワーク形成を目指し活動中。

申し込みフォーム

<https://forms.gle/CHY2oUJPrPV1raox7>



このチラシに関するお問い合わせはこちらまで support@100forest.net

図2：第1回学習会の告知用チラシ

「みたか100年の森」の紹介し、それに通じた食や命、環境のつながりをより深く知ってもらうために、ルーテル学院大学の上村准教授を招き、持続可能な暮らしについてお話をうかがいました。

第2回学習会

日時：2021年9月20日（月祝）13：00～17：00

場所：三鷹市市民協働センター又はZoom

参加：現地25名／Zoom 40名 合計65名

[illegible]

図3：第2回学習会の告知用チラシ

食や命、環境のつながりをより深く知ってもらうために、ドキュメンタリー映画を上映。その後、「みたか100年の森」が市に提案した論文の調査・研究内容と、イベントの協力団体の紹介、最後にお招きした専門家の印鑰智哉さん、中村陽子さんより、世界や日本の食の現状についてうかがいました。第20回みたか市民活動NPOフォーラムとして企画、他団体とも連携しました。

第3回学習会

日時：2022年1月9日（日）13：45～17：00

場所：三鷹市市民協働センター又はZoom

参加：現地21名／Zoom 10名 合計31名

みたか100年の森の学び会 #03

「わたしたちは 何とつながりながら生きているのか」



明治神宮の森



人と自然の物語をつむぎなおす

Dendrologist <樹木学者>
濱野周泰 さんを迎えて **2022 1/9(日)**
Chikayasu Hamano
会場参加 13:45 - 17:00
オンライン 13:45 - 14:50

三鷹に住まわれている人は、濱野周泰さんを「花と緑のまち三鷹創造協会」の理事長としてご存知の方も多いのではないでしょうか。東京農業大学客員教授でもある濱野さんは、天文台の豊かな森の中にある大正時代の建物を保存活用し、絵本を楽しむ場の提供とともに自然や科学への関心につながる活動を行う「三鷹市星と森と絵本の家」のコンセプトづくりや、三鷹市の文化財保護審議会などにも関わられています。また、100年を経て自然の林相となることを目指してつくられた、東京の中心にうっそうと茂る「明治神宮の森」の生態系調査の責任者でもあります。今回はそんな濱野さんをお迎えしてお話を伺いながら、人と自然の物語をつむいでいきます。

主催のみたか100年の森とは、食と森・生態系に配慮した持続可能な社会をテーマに、自然・生態系・都市農業・地域経済・健康などに関わりを持つ団や団体のゆるやかなつながりです。自然と調和した、豊かな暮らしを分かち合うみたかの未来像を描きながら、つながりの「森」をつむいでいます。このイベントではゲストをお迎えしながら、私たち参加者の皆さんと一緒に学びを進めていきます。

参加方法
 会場参加 24名まで / 1,200円
 オンライン 100名まで / 700円

開場 13:30
第一部 13:45 - 14:50
 濱野周泰さんのお話 (Zoom参加可能)
第二部 15:05 - 17:00
 濱野周泰さんを迎えた対話の時間
 (Zoom参加不可、会場参加のみ)

申し込み・お問合せ
 以下のpeatixURLよりお申し込みください
<https://manabiya03.peatix.com/>



図4：第3回学習会の告知用チラシ

花と緑のまち三鷹創造協会理事長、星と森のコンセプトづくりや、三鷹市の文化財保護審議会などにも関わり、明治神宮の森の生態系調査の責任者でもある濱野周泰さんを迎えてお話を伺いました。今回は対話の時間を充実させて、よりそれぞれの体験と学びに繋がるよう、参加人数も制限し、会場の参加を主とする構成としました。

(2) 三鷹台エコフェスタ開催への協力

日時：3月20日（日）13時～16時

「三鷹台駅周辺のまちづくりを考える会（仮）」が主催、三鷹市が後援で開催される、「地域まるっと循環！三鷹台エコフェスタ」に、これまで繋がった農家

さんやお店をつないで出店いただき、出店者同士、または地域の方に広く知ってもらうために、出店者のリレートークを企画するなどの協力をしました。チラシやWEBでの告知なども協力することで、私たちに出来るやり方でエコの輪を広げつつ、「三鷹台駅周辺のまちづくりを考える会（仮）」の力を借りる事で、そのつながりで出店される方との新しい出会いや、私たちだけではつながるきっかけがなかった三鷹台の地域住民との接点を持つことができました。

(3) WEBメディアの構築

三鷹市へ提案した論文の調査の過程で、三鷹市には既にいろんな活動をされている方がいることを知りました。みんなの活動を持ち寄れば、大きな流れを生むことが出来るのではないか。その方々の活動を知ってもらい、一緒に流れを作っていくプラットフォームとして、「もりの人になろう」というWEBメディアを作成しました。私たちが活動を通して出会い、つながった個や団体の活動を物語として紹介していき、その後押しになるものを目指します。



もりの人になろう
ナチュラルな三鷹のまちの未来を描く
ウニブマガジン



図5：「もりの人になろう」WEBメディア TOPページ参考1

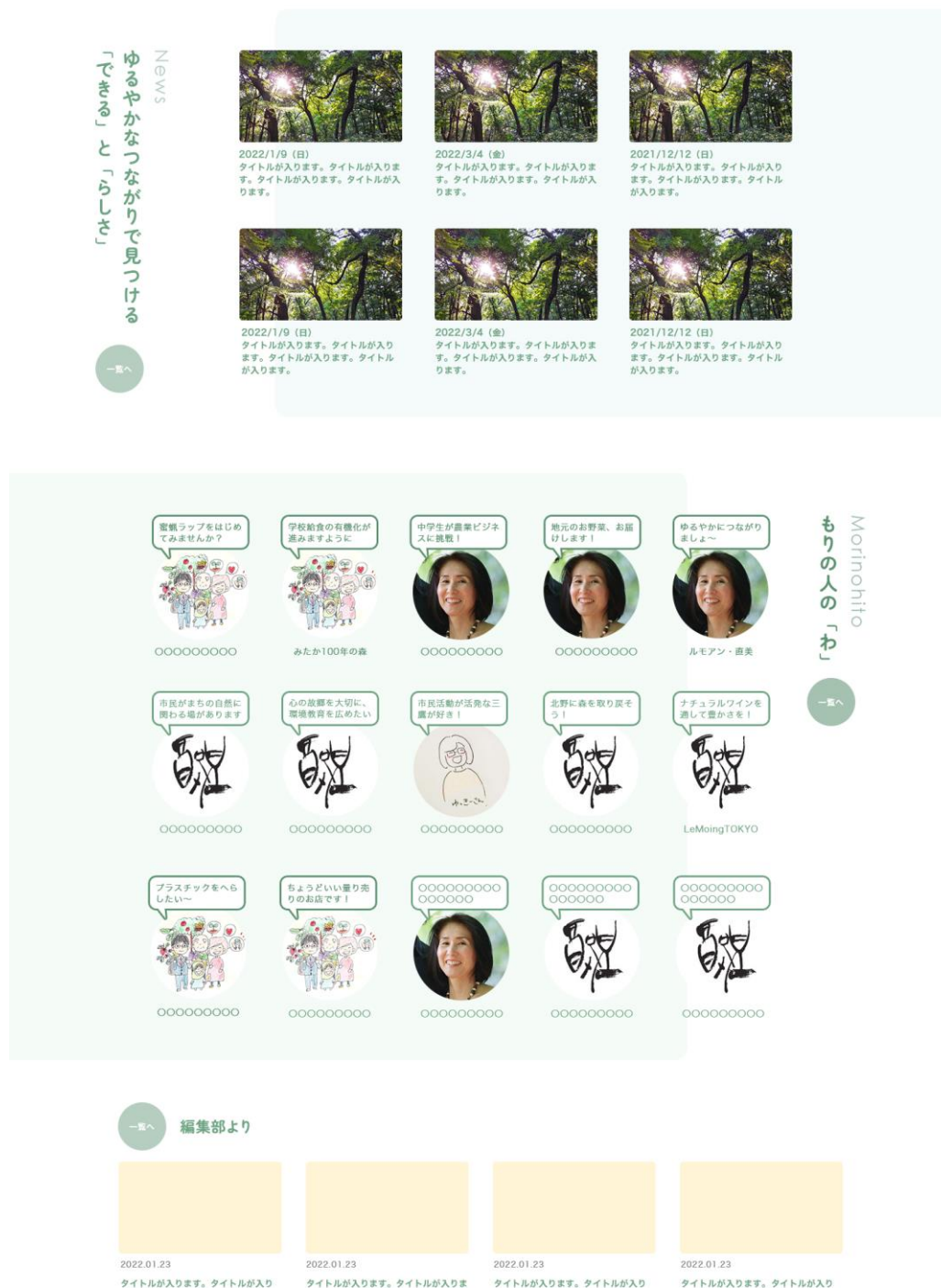


図6：「もりの人になろう」WEBメディア TOPページ参考2

サイトに訪れたユーザーは、活動している個や団体のイベントなどを通して、

自分たちにも出来る関わり方を見つけることが出来ます。活動されている個や団体の詳しい情報も、知ることが出来ます。



図7：「もりの人になろう」WEBメディア個や団体の詳細

7. 考察と今後の計画

アクションを起こし続けることで、いろんな個や団体と出会い、新しい動きにつながっていく事を実感しています。そのアクションを可視化できるプラットフォームを持つことで、より活動を分かり易く伝えていくことができ、広めていくことが出来るのではないかと期待します。そこで今後の計画としても、継続的にこのプラットフォームを活用して三鷹で活動する個や団体を紹介していき、情報を発信していくことに力を入れていきたいと考えます。